

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2020年6月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2020年6月11日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 136社
- 回収率 68.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より9.9ポイント改善の▲50.0となった。

2017年9月以来34ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲53.7、当月と比べ3.7ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2020年 7月～9月
業況	▲26.0	▲29.6	▲47.6	▲50.7	▲59.9	▲50.0	▲53.7
売上	▲20.4	▲28.7	▲50.0	▲53.7	▲55.9	▲55.8	▲52.9
採算	▲20.4	▲28.7	▲43.6	▲47.0	▲60.7	▲48.6	▲51.4
仕入単価	▲34.2	▲25.2	▲12.0	▲18.6	▲11.9	▲17.6	▲24.3
販売単価	4.9	▲4.3	▲12.1	▲14.2	▲16.5	▲12.5	▲9.5
従業員	30.9	28.7	19.3	13.5	15.0	10.3	14.0
資金繰り	▲6.5	▲10.5	▲21.8	▲29.8	▲37.1	▲25.7	▲30.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2020年 7～9月
建設	▲13.8	▲28.6	▲28.6	▲10.3	▲32.2	▲27.6	▲37.9
製造	▲31.1	▲17.9	▲34.5	▲39.3	▲58.6	▲59.4	▲59.4
卸売	▲18.5	▲25.0	▲42.3	▲53.1	▲46.5	▲27.3	▲39.4
小売	▲36.8	▲31.6	▲71.4	▲77.3	▲85.0	▲70.0	▲55.0
サービス	▲36.8	▲56.3	▲75.0	▲87.0	▲90.9	▲81.9	▲86.4

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社職員及び下請業者の人員不足のため、一定量以上の工事受注ができない。今時点でのコロナの影響の実感はないが、社内に感染者が発生した場合、全工事中止等甚大な被害になると思われる。（総合工事） ・新型コロナウイルスの影響から個人住宅建設需要マインドの低下がみられ、契約の延期等が顕在化してきている。（総合工事） ・新型コロナウイルス対策のため社員にマスク使用を義務づけ、うがい消毒、手洗いなどの習慣づけを行っている。契約時において施工期間を長く設定する等の対策により引き渡しに問題なく推移している。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの自粛が解除されつつも取引先からの発注がなく、営業も感染リスク等を考えると見通しが見えない状態である。（食料品） ・各種イベントの中止や取引先の営業自粛等により受注が減少している。7月以降市場がどの程度回復してくるかがまだ見えていない。（印刷・出版） ・新型コロナウイルスの影響はなく受注量も昨年同様確保できている。むしろ人材不足で困り果てている状況。海外からの労働力も見通しが立たない今改めて人材確保に力を入れていきたい。（金属窯業他） ・受注減に加え、販売単価の減額要請もあって業況は悪化。（家具木材）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でマスクや次亜塩素酸水、使い捨て手袋などの衛生用品の特需がここ2～3カ月あり、売上は若干伸びたが、特需を除けば人や企業の自粛に伴っての作業用品需要は少々低迷している。（繊維・衣服等） ・コロナ禍によって全ての催事が中止となり売上が激減。（飲食料品） ・今のところコロナウイルスによる影響で働き方に変更が出たものの、売上等にはさほど影響を受けていない。商品仕入には遅延などの影響は出ている。（機械鋼材） ・コロナウイルスの直接的な影響はないが取引先の状況により受注、回収に支障の可能性有り。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・外商販売で特に空港、JRでの売上が当面大幅減少。（食料品） ・6月1日の緊急事態宣言解除後、通常営業に戻ったが来店客数が激減しており売上がまったくない。どのような対策を立てて売上を確保するか大変難しい状況。ライフスタイルを見直す必要があるかもしれない。（衣服見回品） ・6月に入り多少客足は戻ってきている（来店台数）。売上数量については2割弱ダウンと見ている。公共・土木工事等の軽油出荷は好調である。（その他） ・在宅勤務で出勤率が減少したことにより、消耗品の販売が落ちている。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響でホテル業界の旅行減少により弊社のホテルリネン業は大変苦勞している。1日も早い観光業の発展を祈っている。（理美容・クリーニング） ・飛行機の海外便はもとより国内便の回復もまだ目に見えていない状況。道内のお客様だけを頼りに営業を続けるが絶対数が足りないのでどうすることもできない。（ホテル・旅館） ・コロナ禍で判断が難しいが外食は少しずつ客足が戻ってきている。弁当の占める割合が売上の3割程。利益率はやや悪い（容器代等がかかるため）。（飲食） ・6月に入り多少は戻りつつあるものの人の動きが減少したままで、人が動くための事業者にとって継続することの厳しさが増すばかりで資金面での不安も大きく糸口すら見えない状況になっている。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI6.2 ポイント悪化、採算 DI4.6 ポイント改善、仕入単価 DI8.4 ポイント改善、販売単価 DI3.4 ポイント悪化、資金 DI7.2 ポイント改善、従業員 DI1.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 9 ポイント悪化、総合工事 7 ポイント、建築業 20 ポイント改善となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響、公共・民間工事については、現状大きな影響はないとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.3 ポイント悪化、採算 DI15.8 ポイント改善、仕入単価 DI9.0 ポイント悪化、販売単価 DI8.8 ポイント悪化、資金 DI2.6 ポイント改善、従業員 DI3.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.8 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 13 ポイント改善、食料品横ばい、家具・木材 3 ポイント、金属窯業他 7 ポイント悪化となった。新型コロナウイルスの影響で尚需要の低下が続いている。秋口までイベントの中止が決まっており、集客目的が減っているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI2.4 ポイント改善、採算 DI22.8 ポイント改善、仕入単価 DI1.9 ポイント悪化、販売単価 DI5.6 ポイント改善、資金 DI12.8 ポイント改善、従業員 DI4.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 19.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等 60 ポイント、食料品 6 ポイント、機械鋼材 7 ポイント、その他 15 ポイント改善となった。コロナ関連で売上が伸びたので今月はよい月となったが、今後どうなるか見通しが見つからないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.0 ポイント悪化、採算 DI10.0 ポイント改善、仕入単価 DI10.0 ポイント悪化、販売単価 DI25.0 ポイント改善、資金 DI15.0 ポイント改善、従業員 DI10.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他横ばい、衣料品 17 ポイント、食料品 17 ポイント、自動車 33 ポイント改善となった。休業による売上減少。観光客の来店減少との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI13.6 ポイント改善、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI22.8 ポイント悪化、販売単価 DI9.1 ポイント改善、資金 DI18.2 ポイント改善、従業員 DI4.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、運送 25 ポイント悪化、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、整備業横ばい、その他 15 ポイント、飲食 50 ポイント改善となった。今年度については民間工事・公共工事ともにコロナの影響による売上減少はないと思われるが次年度以降は不透明との声も寄せられている。</p>